



谷口シロさん

まで、別の人生を歩もうとする父の姿のお話ですから、「お父さん」が、大きな一つのテーマになっているように思うのですが。

**谷口さん** 「父の暦」は父親がテーマですが、「遙かな町へ」は、母親を描こうと思った作品なのです。母親の苦しみ悲しみを伝えようと考えたのですが、父親の話も重要なテーマになってしまったので、母親の方が少し薄くなってしまうのかもしれないですね。

**竹内市長** 子どもから見ると、父と母の気持ちなど理解できなかった部分が後から次第にわかっていく過程が、これらの作品に共通していますね。

**谷口さん** 子どものころ思っ

ていた事柄が、成長してみると、実は間違っていたり錯覚していたのだと気付くことが結構多いと思うのですよ。疑問に思っていたことが、大人になって父親と話し合ううちに謎が解けるとか、両親や兄弟に対して勝手に嫌だと思っていた面が実は自分の思い違いだったとかね。私もそういう体験があったので、漫画で表現できないかなと思いついに「家族の和解」をテーマに描きました。読者に通じたかどうかわかりませんが…。

**竹内市長** 私は、「父の暦」「遙かな町へ」をぜひ読んで考えてもらいたいと思います。親子がもつと通じ合って生きていくことの大切さと難しさを作品が教えてくれると思います。そういう意味からも私は、谷口さんの作品を、鳥取市の多くの人に読んでいただきたいと思っています。

**郷里・鳥取への思い**

**竹内市長** 今、東京を拠点にご活躍されているわけです

が、郷里鳥取をどのように感じていらつしやいますか。

**谷口さん** 子どものときに遊んだり、見たりしたときの場所というのがすごく印象に深いので、いつまでも覚えていきます。鳥取砂丘もそうです。一番よく遊んだのが久松山です。取材のときにも行ってみたのですが、ほとんど変わっていないので感動しました。いろんなものがどんどん変わるなかで、こういうものが残っているということの素晴らしさを感じました。できれば、このまま残して欲しいですね。

**竹内市長** そうですね。鳥取砂丘や久松山などの自然が、そのままの形で残っているわけですが、これからは特に意識的にいいものを残していくという発想を大切にしたいと思っています。

**谷口さん** ただ、生活が掛かっていますし生



活が不便だと困るので、そこをクリアできれば古いものというか、いいものを残していくということは、今後、子どもたちのためにも必要ではないかなと思います。

**竹内市長** 生活のテンポとか町の雰囲気は、東京とずいぶん違いますよね。

**谷口さん** ぜんぜん違いますよ。気持ちいいですよ。東京にいて田舎に帰るせいかもしれないませんが、やっぱり落ち着きます。人の数も含めて、都会から実家に帰るとすごく過ごしやすい環境だと感じました。近くには自然がいっぱいで、鳥取砂丘もありますし、温泉もありますし、海も近くてすごく恵まれた環境の町だなと、離れてみて初めて感じましたね。

**竹内市長** おっしゃるとおりだと思います。私も東京や他の都市でも生活していましたが、四季の変化がはつきりしており、自然との触れ合いのなかで感動があるんですね。子ども時代に、鳥取で生活したということはお互

いの共通点ですね。

**谷口さん** これは、かなりの財産になりましたし、そういうものが私の作品のなかに生かされてくるのかなと感じましたね。

**竹内市長** それが世界から認められる、評価されると考えると、郷里を鳥取として育ち、私たち、また、今鳥取で育ち、生活しているみなさんには誇りを持って欲しいと思います。

**谷口さん** 私も鳥取に育ったこと、鳥取という郷里があるということ、かなり誇りに感じるようになりました。

**鳥取の若者へ**

**竹内市長** 谷口さんのように、世界的にも評価を受けるということが可能であるとい



竹内功市長